



宜野湾市立
普天間第二小学校だより

6月

やすらぎ

発行日:平成28年6月22日 火
発行者
普天間第二小学校
校長:喜屋武 悦子



梅雨も明け、本格的な夏到来の日々が続いておりますが、保護者の皆さまも、お変わりなくご健勝のことと存じます。6月も残り少なくなりましたが、校庭のあちらこちらに月桃の花がほころび、沖縄は祈りの季節を迎えました。学校においては、6月は「命」「平和」「健康」「人権」について、全児童で考えて欲しいということで歯の衛生月間、いじめ予防月間そして、慰霊の日の取り組みを行ってまいりました。

「こころ」は、いつも「ころころ」変わるので「こころ」と言うそうなんです…(?) 漢字で書いてみても「心」と、何だか不安定な印象を受けますね。ところが、一箇所くさびを打ち込むと「必」となり、「必ず」となって揺るぎないものになります。「心」を揺るぎないものにするためには、どうすればよいのでしょうか。それは、意を決し、「心」こめて、日々の生活の一つ一つ、自分の仕事の一つ一つを丁寧にやってみることだもそうです。近道はないそうです。4月のスタート時にたてた目標を必ず実現するため、「くさび」の一手を打てればと考えます。

今月末は、家庭学習強化週間でもあります。親子で会話をしながら「褒めてのばす」週間にしていただけたらと願います。

普天間第二小学校には穏やかで気持ちのよい校風が吹いています。それは、保護者の皆さまが、しっかりと家庭教育をしてくださって、素直なよい子を学校へ送ってくださるからです。今後も保護者と連携をしながら安心・安全で楽しい学校づくりしてまいります。宜しくお願いします。

平和集会で平和への思いを新たにしました



6月17日(金)に、石原絹子さん(79歳)、を講師としてお招きし平和を考える集会を開催しました。はじめに、戦時中・戦後のDVD鑑賞し、次に石原さんのお話を聞きました。ご自身の体験談・・・戦争中に家族全員を失ったこと。7歳にしてひとりぼっちになり収容所で祖母に引き取られたことが、その祖母も亡くなり8歳で親戚の家を転々としたこと・・・

戦争中は、暗い防空壕で暮らし、日本兵に追い出されたこと。実の母親が空爆で命を亡くしたこと・・・それでも、まっすぐに前を向き、生きてこられたこと等を淡々と、心に響く声でお話をなされました。・・・子どもたちは、真剣に聞いておりました。

最後に、全児童による合唱「平和の鐘」の歌声は体育館全体に響き渡り、平和の尊さ・命の尊さについて考え、今やるべきことについて・・・一人一人が考える機会になりました。

“ぬちどう宝”。一つしかない命を大切にしていける子どもたち、みんなと仲良くできる子どもたちを育てていきたいですね。



↑<お礼のことば>
(渡名喜愛海さん)

下校後の過ごし方

『家訓~我が家のマニフェスト~』

～親から子どもに伝えたいこと～

- 第一条:「上を向いて歩こう」
どんな時にも姿勢が大事
- 第二条:「働かざる者食うべからず」
家事の分担をする
- 第三条:「早寝早起きは三文の徳」
健康規則正しい生活から

第四条～「趣味は心の安定剤」「食事は揃ってが基本」「食事は手作りが一番」「タイエットより腹八分目」「気合いを入れて風邪をはひかない」「完璧主義にならない」「挨拶は心を聞くキーワード」「以心伝心より感謝の言葉」「運動は楽しみながら」「限りある時間と財産」「慌てる時こそ慌てない」・・・と続きます。家訓と言えりほどのものでなくても、親から子へ伝えたいことを日常の中で少しずつ伝えていくと良いかも知れません。

「子どもは親の言うとおりににはしないが、親のする通りにする」と言われます。親の後ろ姿をみているということでしょう。

先日、本校で、『子どもが未だ帰ってこない・・・』という一通の電話があり、大変心配した事例がございました。幸い、大事に至らず、友だちの家に親の許可を得ず外泊をしております。

学校の方では、下校後の所在において、「誰と・どこで(場所)・何時まで」等、親に伝えて遊びに行くようにと指導しているところではあります。

遊び方・帰宅時間等においては、子どもたちの安全確保のため、日常的に、双方の親御さんの許可・管理が大前提であることも考え、また、親子間での話し合いも双方での確認も成長の要と安全確保のために、遊ぶ場所や帰宅時刻等について、再度、話し合いをしていただきたいと思います。ルールや約束を守る等、ご家庭の方でも徹底したご指導・声かけをお願いします。学校・家庭・地域で一体となって見守っていきましょう。

左記は、「家訓~我が家のマニフェスト~」です。ご参考にしてください。